

「市長と一緒にティータイム」対話概要

団 体 名 傾聴ボランティアうさみみ
実施日時 令和8年7月29日（水）10時30分～12時00分
実施場所 市役所市長室
出 席 者 傾聴ボランティアうさみみ 6名
市 3名
テ ー マ 家庭で介護されていらっしゃる方へのケアを考える

2 意見交換



うさみみ：これまでの活動で心に残ったお話をします。最初は警戒されていた方が、楽しく話をしてくれ帰る時には、「また来てね」と言われて嬉しかったことです

うさみみ：自分は経験が浅く頷いてばかりでしたが、「今日はよく寝られそう」と喜んでもらえました。

うさみみ：傾聴は、話を聴くイメージを持たれますが、大切なことはコミュニケーションです。

市長：一方的に話を聞くだけではなく、コミュニケーションを通じて相互に理解し、信頼していただくことが大切です。お話を聴くことはその一歩となり、やり取りを続けることで雑談ができるようになります。現在は、どのくらいの頻度で活動されていますか。

うさみみ：月に2回くらい高齢者施設等に訪問し傾聴ボランティアをしています。今回のテーマである「家庭で介護されている方へのケアを考える」ですが、これまでの活動を踏まえて、これから先、家庭で介護されている方のお話を聴くことが必要となると思い設定したものです。

市長：介護保険制度は、介護を受ける方への支援だけでなく、介護をする方に対してどのような支援ができるかという視点も大切にしたい、介護する方も支える制度だと考えています。介護をする方が孤立してしまうこともある中で、皆

さんが話を聴き、共感することは、介護する方の力となり、大きな支えになります。

お話を聴くなかで困ったことがありましたら、お一人で抱え込むことのないよう、お近くの地域包括支援センターにご相談ください。

うさみみ：傾聴を行う上で留意することとして、相手を否定せずに受け入れること、相手の気持ちを慮り、相手のことをよく考えることが大切です。あくまでお話を聴かせていただくという姿勢を持ち、相手に寄り添うことが重要だと考えていますが、傾聴した後に、「果たしてこれが最善の対応だったのか」など迷うこともあります。

市長：その時の状況に応じて、その時点でできる最善の対応をされているので、決して間違いではありません。傾聴活動をされている団体の皆さんが、このような悩みを抱えながらも、相手の話を聴き、活動を振り返りながら前に進んでいることは、ご苦労も多いことと思いますが、大変素晴らしい活動です。



うさみみ：自分がもし傾聴してもらおう立場になったら、来てくれただけで嬉しくたくさんお話をすると思います。若い方にもぜひ傾聴活動に参加していただきたいと思いますが、お仕事をされている方の場合ですと定年の年齢も上がっているなど、ボランティアの人数が減少しており心配です。

うさみみ：袖ヶ浦市の良いことを教えてください。

市長：全国的に人口が減少する中、袖ヶ浦市では人口が微増傾向にあり、66,000人を突破しました。また、児童生徒数の増加に対応するため蔵波小学校、奈良輪小学校、昭和中学校の校舎の増築を進め、昭和中学校については昨年度新たな校舎が完成しました。さらに、防災拠点となる市役所庁舎を整備するとともに、身近に相談できる場として地域包括支援センターを整備しました。昭和、長浦、平川の各地区に加え、市役所にも基幹となる地域包括支援センターがありますので、ぜひご活用ください。また、本日お配りした「チョイソコがうら」のパンフレットですが、車がなくても生活できるまちを目指し

取り組んでいますので、移動手段でお困りの方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。

うさみみ：現在は自分の車で施設へ伺っていますが、運転免許証を返納する年齢となるため、今後は施設へ通うことができなくなることが課題だと感じています。チョイソコがうらはどのように利用するのですか。

市長：まずは会員登録していただき、予約のお電話をしてください。30 分前まで予約ができますので、お帰りの分は、行先での滞在時間に余裕を持って予約してください。

うさみみ：外出や趣味の活動は諦めていましたが、チョイソコがうらを利用して、行きたいところへ行けるようになりました。チョイソコがうらがあることで、楽しく生活することができています。一方で、一日でも早く予約しなければ希望する時間の予約が取れない場合もあります。

市長：予約状況を改善するため、車両を新たに 1 台増車しました。

うさみみ：4 台体制にした後でも、予約は混んでいて取るのが難しいです。

市長：病院の受付時間など移動ニーズの高い時間帯は、混み合います。

うさみみ：事務局では、予約を受け付けることができなかった件数を把握していますか。

市長：1 回で予約ができたかどうかの統計は取っています。

うさみみ：予約したものの連絡もせず乗車しない方や、余分に予約をした上でキャンセルする方がいるため、本当に必要としている方が利用できないことや、ドライバーの方が対応に困っているとの話を聞きました。

市長：予約の上限数を設けるなど、利用者の利便性を損なうことなく、対策を講じることができないか検討します。

うさみみ：停留所が増えました。

市長：現在、500 箇所以上の停留所があります。今年は自動運転バスにも取り組みます。

うさみみ：広告紙を活用した生ごみ受けについて、ごみの水分を取ることで、ごみ処理に必要な燃料費の節約につながると聞きました。袖ヶ浦市の皆さんがこのような取組を活用することで、ごみの減量にもつながるのではないかと思います。

市長：ごみをどのように減量していくかという環境面や脱炭素の観点からも、非常に良い取組です。まずは、一人ひとりができることから一歩ずつ取り組んでいくことが大切です。最終的には、生ごみを肥料として活用し、家庭菜園などで使用することもできます。こうした取組について、皆さんに知っていただけるよう、PR にも努めていきます。

市長：本日はありがとうございました。